

(2) 災害発生の場合

学校種別ごとに特徴がみられ、小学校の場合は約半数が休憩時間中に発生しており、中学校、高等学校では課外指導と教科中の災害が過半数を占める。(表7)

(3) 災害発生の場合

小学校では校舎内、校舎外ほぼ同数で教室や遊戯施設での災害もかなり多いが、中学校、高等学校では校舎内の災害が多くなり、運動場や屋内運動場での災害が大部分となる。なお学校外の災害は全般に少ないが、高等学校でやや増加するのは、競技会など学校外の施設での災害が多くなることを示している。(表8)

(4) 災害の種類

災害の97.2%を占める負傷についてみると、骨折、ねんざ、ざ傷、打撲傷が多く、年齢が低いほど骨折、ざ傷が多い。高学年になるとねんざが多くなる。疾病は食中毒、日熱射病、関節炎などであるが各学校を通じて少数である。(表9)

(5) 負傷の部位

小学校・中学校においては負傷の約64%が上肢あるいは下肢に発生しているのに対し、幼稚園・保育所では負傷の55%が頭部、顔面に発生している。(表10)

表5 昭和55年度災害共済給付の状況

区分	A 加入児童 生徒等の数	負 傷		疾 病		廃 疾		死 亡		合 計		給付率 $\frac{B}{A} \times 100$	平均給付額 $\frac{C}{B}$	
		件数	給付額	件数	給付額	件数	給付額	件数	給付額	B件数	C給付額			
小学校	190,393人	4,842件	33,389,867円	68件	892,186円	7件	3,605,000円	1件	6,000,000円	4,918件	43,887,053円	2.61%	8,924円	
中学校	89,658	5,117	37,289,089	157	1,883,461	5	8,860,000	1	6,000,000	5,280	54,032,550	5.84	10,233	
高等学校	全日制	87,924	2,898	35,029,144	117	1,799,938	16	6,080,000	1	12,000,000	3,032	54,909,082	3.43	18,110
	定時制	1,509	12	234,242	1	67,264			1	6,000,000	14	6,301,506	0.73	450,108
	通信制	671												
高等専門学校	786	46	387,392	7	41,532	1	330,000			54	758,924	6.95	14,054	
幼稚園	41,496	452	2,994,960	4	48,136					456	3,043,096	1.13	6,673	
保育所	21,017	203	1,456,473	1	1,992			1	6,000,000	205	7,458,465	1.00	36,383	
合計	433,454	13,570	110,781,167	355	4,734,509	29	18,875,000	5	36,000,000	13,959	170,390,676	3.23	12,208	

表6 最近5ヵ年間の給付件数と給付額の推移

	負傷・疾病 給付件数	廃 疾 給付件数	死 亡 給付件数	給付件数計	給 付 率	給付金額	1件当たり 平均給付額
昭和51年度	13,735件	7件	6件	13,748件	3.19%	98,210,389円	7,143円
52	14,198	23	6	14,227	3.31	107,677,596	7,569
53	14,150	26	7	14,179	3.30	174,766,030	12,325
54	13,660	33	3	13,696	3.17	180,253,582	13,161
55	13,925	29	5	13,959	3.23	170,390,676	12,208

上記には含まれていないが、安全会の死亡見舞金を上まわる損害賠償を受けたため、安全会から供花料3万円を支給した者4件(幼稚園1、小学校1高等学校2)がある。

表7 廃疾見舞金の支給内容

廃 疾 種 別	小	中	高	高 専	計
歯 牙 障 害	1	1	15		17
指 趾 機 能 障 害	4		1		5
視 力 障 害	1	2			3
聴 力 障 害				1	1
醜 状 障 害	1				1
奇 型 障 害		1			1
中 枢 神 経 系 障 害		1			1
計	7	5	16	1	29

表8 死亡見舞金の支給内容

死 因	小	中	高	保育所	計
頭 蓋 骨 粉 砕	1				1
凍 死			1		1
肺炎による窒息死				1	1
肺 水 腫		1			1
溺 死			1		1
計	1	1	2	1	5